

6 学年国語「どう立ち向かう？もしもの世界」学習のポイント（全7時間；書く⑦）

令和8年 1月 清水小学校

【はじめに】

「生成 AI では、こんな～ことができます。こんな～こともできます。」という話を聞くたびに、なんだか気が重くなる。今まで私たちが苦勞してやってきたことを、AI はいとも簡単にやってのける。AI がやってくれるのならば、人はその力を身につけなくてもよいのだろうか。そんなことをしていたら、人はどんどん何もせず、何も考えないようになってしまうのではないか。そんな恐れさえ抱かせる。

「最終的には、人が判断する必要がある。」と繰り返し言われる。しかし、AI がやったことを正しいかどうか、妥当なものなのかどうかを判断するためには、人にその判断をする力がなくてはできない。例えば、AI が分析したものを正しいかどうか判断するためには、分析そのものを人ができなければ、判断などできはしない。分析力を身につけるには、それ相当の学習が必要である。

わたしが危惧するのは、自分の力をつけずに、AI に頼って、できたつもりになる人間が増えることである。それは、AI を使っているのではなく、AI に使われているといっても、過言ではない。現実には、世界では、そういう問題がどんどん出てきている。

教師は、授業によって、子どもを育てる。わたしたちにできることは、授業によって、AI に負けないう、AI を活用する側に立とうとする子どもを育てることだと考える。

そんな思いから、今回の授業づくりを考えた。情報に振り回されずに、信頼性がある情報かどうかを冷静に判断し、自分の生活に生かそうとする子どもを育てることをねらいとする。

★6年生で、公開授業を行います。T.T 授業になります。

【単元の目標】

情報を多面的に検討しながら、説得力のある意見文を書くことができる。

【言葉の力】

多面的に検討して意見文を書く

【つきたい力】

〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」(1)ウ「目的な意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。〕

【言語活動】

さまざまな情報を多面的に検討して意見文を書く。

【評価規準】

〔知技〕

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。
- ・情報と情報との関係づけの仕方を理解して使っている。

〔思判表〕

- ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。
- ・「書くこと」において、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

〔主〕

- ・進んで情報を多面的に検討し、学習の見通しを持って説得力のある意見文を書こうとしている。

【主な学習活動】

<見通す> (1時)

- ・既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。

<取り組む> (2・3時)

①資料を読み取り、考えを持つ。

- ・さまざまな資料から情報を多面的にとらえて考えをもつときに大切なことを確かめる。
- ・資料を読み、情報を整理する。
- ・ペアやグループで話し合い、考えを深める。

②資料を読み取り、意見文を書く。(4・5・6時)

- ・「四人の考え」を読み、誰が、どの情報からどんな考えを持っているのかを確かめる。
- ・「意見文の条件」にしたがって、情報の向き合い方についての意見文を書く。
- ・書いた意見文を読み合い、感想を伝え合う。

<ふり返る> (7時)

- ・単元の学習を振り返る。

【毎時の展開】

【1時】公開授業

本時の目標；単元の設定を理解し、学習の見通しを持つことができる。

本時のめあて；学習の見通しをもとう。

①これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しを持つ。

○教科書 P236 の「言葉の力」を見て、「多面的に検討して意見文を書く」力を身につけることを確かめる。

- ・情報のとびら「未来への情報活用」(教科書 P234・235)の学習を想起させ、単元のつながりを強調する。

②情報を多面的に検討するうえで気をつけることを確かめる。

○教科書 P236 を読み、本単元の設定を確認する。

- ・P236QR 動画を視聴する。
- ・架空の設定であることを前提に、巨大生物が日本に出現したこと、それと同時期に、未知のウイルスが広がったこと、さらには、さまざまな情報が飛び交って人々が振り回されていくという状況を理解する。

○意見文を書くための学習計画を確認する。

①資料を読み取り、考えを持とう。(P237)

②資料を読み取り、意見文を書こう。(P240)

*P240 上段を簡単に読み、どんな意見文を書くかを確認する。下段の「四人の考え」は、眺める程度にする。P238・239 の資料を読み取り、自分たちの考えを話し合った後に、詳しく読み、検討することを伝える。

○P237 を読み、多面的に情報を検討するときに気をつけることを確かめる。

<気をつけること>

・どのような情報が、いつ、だれから発信されているか。

・その情報に信頼性があるかどうかを確かめる。

***教科書に赤線を引かせるようにする。**

③資料を読んで、情報を整理する。

○関連の強い情報に仲間分けをする。

*「情報のとびら」(P235)の「整理」する力を使うことをおさえる。

*ロイロノートに資料①～⑩を一つずつ動かせるようにしておくので、それで、次の三つの内容に仲間分けをする。

・巨大生物とウイルスとの関係・・・資料①、④

・ウイルスへの対策・・・資料①②③、⑤、⑩

・トイレットペーパーの流通・・・資料⑥⑦⑧⑨

○関連の強い情報を**発信された日付**の順に並べる。

○**だれから発信されたのか**を分かるようにする。

*資料に目立つように書き込んだり印をつけたりする。

例 個人、公式、新聞、報道番組、テレビのワイドショー

④本時の学習を振り返る。

○次時では、P238~239の情報を整理した資料を読み取り、多面的に検討することを知る。

[2・3時]

本時の目標；資料を読み取り、多面的に情報を検討することができる。

本時のめあて；資料を読み取り、考えを持つ。

[2時] 公開授業

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。(資料を読み取る。)

・P237を読み、多面的に情報を検討するときに気を付けることを確かめる。

②資料を読み取る。

○前時に整理した資料を確認する。

・大きく三つの内容に分けられることを確かめる。

・巨大生物とウイルスとの関係・・・資料①、④

・ウイルスへの対策・・・資料①②③、⑤、⑩

・トイレットペーパーの流通・・・資料⑥⑦⑧⑨

○情報に信頼性があると考えられるのは、どのような条件にあてはまるときかを確かめる。

*資料の中でおおむね信頼できる発信もと・・・「公式」、新聞、報道番組

公式；おおやけに定められた方式。おもてむきの世間一般にかかわる方式。

おおやけ；①国家。政府。官庁。②個人でなく社会全体に関すること。

公式発表；複数の専門家の見解を踏まえて発表している場合は、信頼できる。

新聞、報道番組；事実を正しく伝えることを目指しており、取材等で多くの人の目や耳で確かめたことを発信しているので、ある程度信頼はできる。但し、新聞も報道番組も特ダネを狙っているところがあるので、それも考慮しておかなければならない。

ワイドショー・・・話題性をねらっているので、偏った見方をしている場合がある。
個人・・・客観性に欠けることがある。主観、感想など、偏った見方になる場合が多い。

★「生成 AI Gemini」による「情報の信頼性」

「情報の4要素」(情報の評価基準)

1、発信元（ソース）の明確さと専門性

- ・権威性と専門性；その分野の専門家、公的機関（政府・自治体）、大学など
- ・責任の所在；発信者の名前、組織名、連絡先が明記
- ・一次情報；実際に調査・取材を行った本人が発信

2、内容の客観性と正確性

- ・根拠（エビデンス）の提示；統計データ、実験結果、引用文献などの裏付け
- ・論理的整合性；筋道が通っている
- ・多角的な視点；メリット、デメリット、反対意見にも触れているか

3、公平性と透明性

- ・利益相反の有無；特定の意図をもって情報操作していないか
- ・非営利性

4、情報の鮮度（最新性）

- ・更新日時
- ・時代背景；現代の常識や最新の研究結果と照らし合わせて古くなっていないか。

<小学生向け>

1、「だれが」言っている？

- ・博士や専門の人
- ・出どころがはっきりしている；ニュース番組、有名な新聞社、役所など

2、「いつ」言ったこと？

- ・古い情報は間違いになることがある
- ・日付（ネットは特に）

3、「証拠」はある？

- ・数字やグラフ；調べたデータがあるか
- ・写真やビデオ；最近にはせものの写真やビデオがあるので、これだけで信じてはだめ

4、「みんな」言っている？（くらべてみる）

- ・テレビでもネットでも本でも同じ？
- ・一人だけが言っているのは、もしかしたら、その人の「思い込み」かも

まよったら「カ・チ・ノ・タ・ネ」

「カ」；書いた人はだれ？

「チ」；知識（内容）は正しい？

「ノ」；のぞみ（目的）はなに？（みんなをだまそうとしてない？）

「タ」；たしかめる（ほかの本やサイトも見る）

「ネ」；ねんげつ（いつ書かれた？）

「これって本当かな？」と一度立ち止まって考えることが、一番大事な第一歩です！

※ある程度、信頼できる。もう少し、改良すると下記のようなになる。

子どもには下記の情報を提示する。

- ・ 情報に信頼性があると考えられる条件を確かめる。

☆情報の4要素

1、「だれが」発信しているか

- ・ 専門家、公的機関（政府、自治体）、大学など
- ・ 出どころがはっきりしている；ニュース番組、有名な新聞社、役所など

2、内容は正しいか

- ・ 根拠；統計データ、実験結果、引用文献など
- ・ 筋道が通っている、いつでも同じ結果
- ・ さまざまな視点でとらえている；メリット、デメリット、反対意見など

3、公平な立場で発信しているか、「みんな」が言っていることか

- ・ 特定の意図で情報操作していない；不安をあおる、金もうけ、特定の商品の販売目的など
- ・ 他のメディアでも同じように言っている；テレビ、ネット、新聞、本など

4、「いつ」発信したのか

- ・ 古い情報は、間違いになっていることがある
- ・ 日づけ（ネットは特に）

☆「カチノタネ」でおぼえよう！

カ；**か**いた人はだれか？（個人は用心）

チ；**ち**しき（内容）は、正しいか？（筋は通っているか、いつでも正しいか）

ノ；**の**ぞみ（目的）は？（お金もうけ・だましておもしろがるものでは？）

タ；**た**しかめる（辞典・辞書などの本や新聞など、信頼できるもので）

ネ；**ね**んげつ（いつ書かれたのか。古くても、新しすぎても用心）

☆一番大事なことは、「これ本当かな？」と一度立ち止まって考えること！

事実

「例解新国語辞典、三省堂」

- ①ほんとうのこと。実際にあったこと。
- ②見る・聞く・さわる、などの感覚でとらえることのできるもの。

「国語辞典 旺文社」

- ①実際にある、また、あったことがら。

「生成 AI Gemini」

だれが見ても変わらない「一つの出来事」（絶対に一つ）

真実

「例解新国語辞典、三省堂」

だれにも否定することのできない、ほんとうのこと。

「国語辞典 旺文社」

まこと。ほんとう。

「生成 AI Gemini」

その人の立場や気持ちによって変わる「本当のこと」（人の数だけある）

※AIの「真実は、人の数だけある」という解釈には納得できない。たとえ多くの人がそう思っていな

くても、「その人がそれを本当のことだと思ったのならば、それがその人にとっての真実だ。」となってしまうと、世の中はおかしくなってしまう。それは、「真実」ではなく、その人の「見方・とらえ方」である。一つの「事実」をどう捉えるかは、人の立場や気持ち、あるいは生育環境等によって様々に違って来る。それをその人の「真実」と捉えるのは非常に危険である。今回は、この問題は授業では取り上げないが、AIの出してくる答えがいつも正しいとは限らないということは、子どもたちに伝えたいことである。

※昨年度、城東小での授業では、子どもたちは、資料⑤の「毎日手洗いとうがいをしていても、新種のウイルス感染症にかかった」という「事実」にこだわって、信頼性があるかどうかの判断に迷いが生じていた。たとえ「事実」であっても、「いつでもそうか」ということを考えると、「感染予防をしても感染症にかかった人がいるから、感染予防は無意味」ということにはならないことが判断できる。「内容は正しいか」の判断をするためには、「事実」がそのときだけのものか、「いつでもそうか」ということを考えることを忘れてはならないことをおさえておきたい。

○「情報の4要素」を使って、資料①～⑩を信頼性があるかどうかで分類する。(ロイロノート)

- ・前時にロイロノートで「三つの内容」で分類したものを使って、それらを「情報の4要素」をもとに、信頼性があるかどうかで分ける。
- ・「情報の4要素」の何を根拠に分けたのか、分かるようにメモしておく。
- ・提出箱に提出する。

③本時の学習を振り返る。

- ・資料を信頼性があるかどうかを考えて分類する作業を通して思ったこと、感じたことを簡単な言葉でまとめる。(ロイロノート)
- ・次時は、信頼性があるかどうかで読み取って考えたことをもとに、話し合うことを確かめる。

〔3時〕公開授業

本時の目標；資料を読み取り、多面的に情報を検討することができる。

本時のめあて；資料を読み取って考えたことをもとに、対話をしたり、話し合ったりして考えを深めよう。

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。

- ・ロイロノートに分類したものを使って、対話をしたり、話し合ったりすることを確認する。

②対話の仕方を確かめる。

○提出された友達のものを見て、話したい人の検討をつける。

- ・同じ考えの人と話し、自分の考えを確認する。
- ・違う考えの人と話し、どうしてそう考えたのかを出し合い、多面的に情報を検討する。
- ・資料そのものについて、「どうして〇〇さんは～のような発信をしたのだろうか。」のように、発信者の気持ちや、信頼性のない情報がどうして拡散されてしまうのかについても話し合う。
- *教師と子どもで対話のモデルを示し、どのように対話をするのか分かるようにする。

③話したい人と対話をする。

*教師も対話の中に入る。

④全体で話し合う。

*子どもたちから、みんなで話し合ってみたいことを出させる。できるだけ、意見が分かれて、自分たちだけではよくわからないような話題を出させるようにする。出ない場合は、教師から提示する。

⑤本時の学習を振り返る。

- ・対話をしたり、全体で話し合ったりして、考えたことを短い言葉でまとめる。(ロイロノート)
- ・次時からは、意見文の学習に入ることを確かめる。

〔4時〕公開授業

本時の目標；情報を多面的に検討して、説得力のある文章を書く準備をすることができる。

本時のめあて；情報を多面的に検討して、意見文を書く準備をしよう。

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。

- ・資料を読み取ったり、友達と話し合ったりしたことを踏まえて情報を整理し、意見文を書くことを確認する。

②四人のうちの誰の考えに対して意見文を書くかを決める。

○教科書 P240「四人の考え」が、それぞれ P238・239 のどの情報に関連しているのかを確かめ、四人のうち一人を選ぶ。

- ・関連の強い情報を確かめる。(ロイロノート)

石田さん・・・資料①④

西川さん・・・資料①⑤⑩

星野さん・・・資料⑥⑦⑧⑨

高木さん・・・資料②③⑤⑥⑦

*「四人のうち一人にアドバイス」とあるから、四人の考えは、どれも賛成はできない考えであることが分かる。なぜ、そのような考えになったのか、関連する資料をもとに、確かめる。

- ・四人のうち誰の考えに対して意見文を書くかを決める。

③「意見文の条件」を確かめて、意見文の構成メモを書く。(ロイロノート)

- ・資料のどの部分を引用するのか決める。

④意見文の例文を見て、「二百字以上～三百字以内」とはどの程度なのかを確かめる。

*原稿用紙に書かれている例文を見て、文章の字数との関係を実感的につかめるようにする。

⑤本時の振り返りをする。

- ・次時は、条件に従って、意見文を書くことを確かめる。

〔5時〕

本時の目標；情報を多面的に検討して、説得力のある文章を書くことができる。

本時のめあて；情報を多面的に検討して、意見文を書こう。

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。

②条件をもとに、意見文を書く。

- ・ロイロノートに書く。
- ・書いた文章を読み返し、適宜修正する。

③本時の学習を振り返る。

○次時は、書いた意見文を読み合うことを確かめる。

〔6時〕

本時の目標；書いた意見文を読み合って感想を伝え合うことができる。

本時のめあて；意見文を読み合おう。

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。

②書いた意見文を読み合う。

*学級の実態によって、ペアかグループなどで読み合うかを定める。

○意見文を読み合い、「観点」をもとに感想を共有する。

・よいと思ったところを中心に感想を伝え合う。

「観点」

- ・文章の構成が分かりやすいか。
- ・考えが、理由とともに書かれているか。
- ・情報が適切に引用されているか。
- ・指定の字数で書かれているか。
- ・特にこだわったポイントは何か。

*いくつかを全体で共有し、よいところを中心に気づいたことなどを発表させる。

③文章を修正する。

○共有したことを確かめ、自分の文章でよりよくできそうなところを探し、修正する。

④本時の学習を振り返る。

○次時では、単元の学習を振り返ることを確かめる。

〔7時〕

本時の目標；意見文を完成させ、単元の学習を振り返ることができる。

本時のめあて；意見文を完成させ、学習を振り返ろう。

①本時のめあてを確かめる。

○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。

②意見文を完成させる。

○共有したことを確かめ、よりよくできそうなところを探して意見文を修正し、完成させる。

・友達の助言や自分の推敲をもとに意見文を直す。

③単元の学習の感想を話し合う。

○本単元を通してできるようになったこと、分かったこと、考えたこと、がんばったことなどを出し合う。

*情報を多面的に検討するとはどういうことか、情報時代を生きる自分たちの情報への向き合い方から考えたことと、説得力のある意見文を書くにはどうしたらよいかという大きく二つの視点から感想を出させたい。

※意見文の修正は、かなりハイレベルなので、前時に書いたものでよしとしてもよい。その場合は、単元の学習の感想をロイロノートに書かせて提出させ、全体で共有する時間をたっぷりとるようにするとよい。

④本単元の学習を振り返る。

- 「言葉の力」に沿って単元の学習のまとめをする。
- 本単元で学習したことを活用できる場面を出し合う。